

世界の歴史的灯台百選 山陰最古の西洋式灯台

みほのせき 美保関灯台



宍道湖・中海の北に細長く横たわる島根半島。出雲国風土記の国引き神話では「美保之碕」（中世から地蔵崎）は北陸地方から、日御碕は朝鮮半島から引いてきたものと伝えられています。

美保関は九州と北陸との中間に位置し、中世以降、港湾としての機能を高めた美保湾が山陰海域の中心となりました。出雲や安来方面からの鉄をはじめとする重要な物資は、中海や宍道湖、境水道を経て美保関で外海用の船に積み替えられ、北前船で賑わう美保関は、港に灯される常夜灯が目印となりました。

美保関から外洋へと向かう船は、島根半島の突端の地蔵崎を回りますが、この岬は海難事故が多く、慰霊のためいくつもの地蔵を祀ったことから地蔵崎の名がつけられたそうです。この地蔵崎に建つのが明治31年（1898）11月8日に初点灯された美保関灯台です。山陰最古の西洋式灯台の高さは14mですが、水面からの高さが83mあり、美保湾を隔てて大山、弓ヶ浜、また遠く隠岐の島を望むことができます。

フランス人技師の設計による美保関灯台は、日本の灯台史からいえば外国人設計の末期のもので、5年後に完成する日御碕灯台は石橋絢彦の設計です。美保関灯台の施工は、美保関町片江在住の石工寺本常太郎の手によって行われ、灯台守の官舎と一体となった白亜の殿堂は、明治の面影をとどめています。また、灯台を取り囲む延長53mの石塀は、半八角形平面に折れ曲がり、全体を布積で築き、表面を平滑に仕上げた砂岩の石垣に、江戸切仕上げの砂岩の塀をのせる2段構造となっています。灯台と同じ大型の石材を積み上げた石塀は風格ある外観で、登録有形文化財に指定されています。

当初は地蔵崎灯台と呼ばれましたが、地蔵崎の名前が全国的に多いことから、昭和10年（1935）に「美保関灯台」と改称されました。また、国際航路標識協会の総会で、歴史的・文化的価値のある文化遺産として日御碕灯台（島根県）、犬吠埼灯台（千葉県）、姫埼灯台（新潟県）、神子元島灯台（静岡県）とともに、「世界の歴史的灯台百選」に選ばれています。

■位置図



灯台と同じ大型の石材を積み上げた石塀と旧事務所、宿舎



美保関灯台



鳥居の中央4km先の海上に浮かぶ島を「沖の御前」、眼下に横たわる島を「地の御前」という。



地蔵崎展望デッキから美保関灯台を望む